

資料提供	
令和5年3月2日	
担当	美術館整備局(石原)
電話	0858-47-3011

3月21日(火・祝) 開館2年前カウントダウンイベントで、 鳥取県立美術館のロゴ・シンボルマークを発表します

令和7年春開館予定の鳥取県立美術館の象徴となるロゴ・シンボルマークについて、開館2年前カウントダウンイベント「OPENNESS(オープンネス)!未来をつくるデザインフォーラム」において発表します。

昨年7月に県内外から応募された1,726点のデザイン案の中から最優秀作品1点が選ばれ、デザイン調整を終えて鳥取県立美術館のロゴ・シンボルマークとして採用されます。

また、優秀賞5点、特別賞6点もあわせて発表し、各受賞者には、JA鳥取中央の協力により副賞として鳥取県の特産品が贈られます。

記

1 イベント名

開館2年前カウントダウンイベント第二弾「OPENNESS! 未来をつくるデザインフォーラム」
第1部 ロゴ・シンボルマーク審査結果発表&授賞式

2 日時 3月21日(火・祝) 午前11時から午前11時40分まで

3 場所 鳥取県立倉吉未来中心 2階「セミナールーム3」

4 スケジュール概要

○午前10時30分 開場

○午前11時 開会

- ・開会挨拶 足羽 英樹(あしば・ひでき)鳥取県教育委員会教育長
- ・ロゴ・シンボルマーク公募事業の概要説明 事務局担当者
- ・副賞紹介 栗原 隆政(くりはら・たかまさ)JA鳥取中央代表理事組合長
- ・ロゴ・シンボルマーク発表
- ・最優秀賞受賞者によるデザインコンセプトの説明
- ・賞状授与・副賞授与

足羽 英樹 鳥取県教育委員会教育長・栗原 隆政 JA鳥取中央代表理事組合長

- ・審査委員講評 梅田 雅彦(うめだ・まさひこ)鳥取県教育委員会事務局美術館整備局長

○午前11時40分 閉会

※司会 濱井 丈栄(はまい・ともえ)フリーアナウンサー

5 主催 鳥取県立美術館パートナーズ株式会社、鳥取県教育委員会

6 その他

○同日午後1時から、第2部スペシャルトーク「美術館とデザインとの幸せな関係」を開催し、建築デザイン、ブランディング、コミュニティ・デザインの専門家によるクロストークを行います。

(鳥取県立美術館ウェブサイトでの情報掲載URL <https://tottori-moa.jp/news/3304/>)

○1階アトリウムで、ロゴ・シンボルマーク応募作品のうち約1,000点を展示します。

(3月18日(土)正午から24日(金)午後5時)

○詳細は、添付資料をご覧ください。



7 問合せ先

鳥取県立美術館パートナーズ 広報担当

電子メール:info@tottori-moa.jp 電話:0858-27-0771

(不在があるのでできるだけメールでのご連絡をお願いします。)

鳥取県立美術館 2025 年春の開館まであと 2 年！

3/21(火祝)カウントダウンイベントでロゴ・シンボルマークを発表します

概要	<ul style="list-style-type: none">鳥取県教育委員会と鳥取県立美術館パートナーズ株式会社は、県立美術館開館 2 年前の節目にあたり、3 月 21 日(火祝)に、鳥取県立美術のロゴ・シンボルマークを発表します。ロゴ・シンボルマークは 2022 年に応募資格不問で公募し、1726 点集まったデザイン案の中から、一次審査にて 6 点に絞られました。その後 LINE による一般投票を経て、最終審査にて最優秀賞 1 点と優秀賞 5 点を選定されました。このほか、特別賞 6 点も選定され、このたび発表します。各賞受賞者には JA 鳥取中央の協力により副賞として鳥取県の特産品が贈られます。最優秀賞に選ばれた作品は、デザイン調整を終えて、鳥取県立美術館のロゴ・シンボルマークとして採用されます。授賞式では応募者本人が登壇しデザインコンセプトについて説明します。
日時	2023年3月21日(火祝) 11:00-11:40
場所	鳥取県立倉吉未来中心 セミナールーム3
プログラム概要	<p>鳥取県立美術館開館 2 年前カウントダウンイベント「OPENNESS!未来をつくるデザインフォーラム」 【第一部】ロゴ・シンボルマーク審査結果発表&授賞式</p> <p>[挨拶・賞状授与] 足羽英樹 (あしば・ひでき 鳥取県教育長) [副賞授与] 栗原隆政氏 (くりはら・たかまさ JA 鳥取中央代表理事組合長) [講評 (審査委員)] 梅田雅彦 (うめだ・まさひこ 鳥取県教育委員会 美術館整備局長) [コンセプト説明] 最優秀賞受賞者 (※お名前は当日発表します) 受賞者の出席見込み…最優秀賞 1 名、優秀賞 1 名、特別賞 1 名 協力: JA 鳥取中央 後援: 鳥取県デザイナー協会(清水 文人会長)、 県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会(広田 一恭会長・鳥取中部ふるさと広域連合長)、 とっとりプラットフォーム 5 + α(事務局: 鳥取短期大学グローバルセンター)</p> <p>※同日午後には【第二部】スペシャルトーク「美術館とデザインとの幸せな関係」を開催します。 詳細は別添のチラシをご覧ください。</p> <p>同時開催 ロゴ・シンボルマーク応募作品展 応募作品のうち約 1000 点を展示します。 会場: 鳥取県立倉吉未来中心 1 階アトリウム 期間: 2023 年 3 月 18 日(土)正午~24 日(金)午後 5 時 ※3 月 20 日(月)は休館 ※3 月 21 日の授賞式終了後に展示替えを行い、各賞を明示します。</p>
主催	鳥取県教育委員会、鳥取県立美術館パートナーズ
別添資料	あり ・ なし 開館 2 年前カウントダウンイベント チラシ、候補作品一覧、LINE 一般投票チラシ

【本件に対するお問合せ先】 ご取材・ご紹介いただける場合は下記までご連絡ください

鳥取県立美術館パートナーズ 広報担当: 石山

[Mail] info@tottori-moa.jp [Tel] 0858-27-0771

※できるだけメールでのご連絡をお願いします。



OPENNESS!

未来をつくる

デザインフォーラム

鳥取県立美術館 開館2年前
カウントダウンイベント第二弾

2023.

3.21 [火・祝]

in 倉吉 - 参加無料 -

2年後に開館する鳥取県立美術館では昨年、美術館のロゴ・シンボルマークを募集し、1700点余りの応募の中からこのたび最優秀作品を選定いたしました。美術館にとってデザインとは活動の根幹にかかわるテーマです。建築のデザインにはじまり、サイン計画や展示プラン、広報物やカタログのデザイン、さまざまな分野におけるデザインの集大成として美術館とその活動が存在しているといってもよいでしょう。このたび、鳥取県立美術館の開館準備の一環として、ロゴ・シンボルマークの審査結果発表と授賞式に合わせて、建築デザインから美術館のブランディング、コミュニティー・デザインといった幅広い分野の専門家の方々を招いて「美術館とデザインとの幸せな関係」をテーマにシンポジウムを開きます。多くの方の来場をお待ちしています。

[司会] 濱井 丈栄 (はまい・ともえ | フリーアナウンサー)

第一部 11:00 - 11:40

ロゴ・シンボルマーク 審査結果発表 & 授賞式

最優秀賞・優秀賞・特別賞の発表
決定したデザインのコンセプト説明

同時開催 | 応募作品展

期間 | 2023年3月18日(土) PM ~ 3月24日(金)
会場 | 鳥取県立倉吉未来中心1F アトリウム

応募作品 1726点のうち、約1000点を展示します。
各賞受賞作品および上記展示作品は、授賞式終了後にプレサイトに掲載予定です。

会場 鳥取県立倉吉未来中心セミナールーム3
(鳥取県倉吉市駄経寺町212-5)

定員 各120人(事前申込60人、当日参加60人)
当日は各回30分前から開場・受付

申込 WEBフォームまたは往復はがき3/6(月)必着
締切後1週間を目安に当落をご連絡します
(WEB申込の方はメール、ハガキ申込の方はハガキを発送)

[ハガキ記載事項]

- 参加希望者全員の氏名(ふりがな)※4人まで
年齢(学年) 住所 電話番号
第一部、第二部の参加希望

※参加者の方へ配慮が必要な事項、ゲストへの質問
などありましたらあわせてご記入ください。

[ハガキ送付先]

〒682-0012 鳥取県倉吉市清谷325
ワーキングガレージ SISU 2F
鳥取県立美術館パートナーズ イベント担当



▼詳細・申込

※ご記入いただいた個人情報は、本イベントの運営(受付・抽選・連絡)以外の目的には使用しません。
ご了承ください

第二部 13:00 - 15:30

スペシャルトーク 美術館とデザインとの幸せな関係

■鳥取県立美術館の紹介(50分)

建築計画、学芸部門の取り組み、運営のコンセプトについて担当者がお話します。

[建築] 長谷川 龍友 (はせがわ・たつとも | 横総合計画事務所 取締役副所長)

[学芸] 三浦 努 (みうら・つとむ | 鳥取県教育委員会美術館整備局美術館整備課 参事)

[運営] 赤尾 靖枝 (あかお・やすえ | 鳥取県立美術館パートナーズ 統括マネージャー)

■ゲストトーク…それぞれの活動紹介・クロストーク・質疑応答(100分)

[ゲスト]



西澤 徹夫 (にしざわ・てつお)

2000年、東京藝術大学美術学部美術研究科建築専攻修了。2000年~2005年 青木淳建築計画事務所 2007年より西澤徹夫建築事務所 パウル・クレー展(2011年)、Re:play展(2015年)(東京国立近代美術館)、森村泰昌展(2022年)(京都市京セラ美術館) 会場デザインや、東京国立近代美術館所蔵品ギャラリーリニューアル(2011年)、京都市美術館(2019年)、八戸市美術館(2021年)など



桐山 登士樹 (きりやま・としき)

1987年から35年に渡ってデザインの可能性を探り、さまざまな基盤づくりや、横断的な活動を実践。1993年から富山県のデザイン振興に携わり、行政の枠を越えた活動を実践しデザイン先進県富山を創り上げる。現在、株式会社 TRUNK ディレクター、富山県総合デザインセンター所長、富山県美術館副館長。これまで「ニューヨーク近代美術館巡回現代デザインに見る素材の変容」「イタリアと日本2001 生活のデザイン展」他



大田 佳栄 (おおた・よしえ)

スバイラルキュレーター、株式会社ワコールアートセンタープロデュース部アートプロデュース課課長。情報誌の編集者を経て、2001年同社入社。2004年より館内外のアートプロジェクトを多角的に推進、現代美術を軸にした展覧会・フェスティバルのキュレーション、国際事業推進などを担う。2012年より国際交流事業「Port Journeys」ディレクター(横浜・象の鼻テラス)。「道後オンセナート2022」「道後アート2023」キュレーター。2022-2023、京都府文化力による未来づくり審議会委員。

[モデレーター] 尾崎 信一郎 (おさき・しんいちろう | 鳥取県教育委員会美術館整備局美術振興監)

[協力] JA 鳥取中央

[後援] 鳥取県デザイナー協会、県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会、とっとりプラットフォーム5 + α

鳥取県立美術館(開館準備中) プレサイト | <https://tottori-moa.jp> [主催] 鳥取県教育委員会、鳥取県立美術館パートナーズ

問合せ | 鳥取県立美術館パートナーズ イベント担当 event@tottori-moa.jp | 鳥取県教育委員会美術館整備局 0858-47-3011

鳥取県立美術館 ロゴ・シンボルマーク 候補作品一覧

記号

作品

デザインコンセプト（作者による）

A



みんながわくわくして楽しくなるように、
たくさんの線やカラフルな色をつかって、
きらきら輝いているように工夫しました。

B



『未完成なマーク』

鳥取（TOTTORI）の複数あるTを県民一人ひとりに見立て、そのTの集積によって美術館のシルエットを構成、県民が主体となる美術館を目指したデザインとなっている。
TとTの隙間は、建設後の活用こそが重要である事を、隙間を埋めていく＝皆で大切に作り上げていこう、というメッセージになっており、参加しやすい「開かれた場」である事も表している。
『未完成なマーク』から『思いのこもった美術館』完成を目指して。

C



シンボルマークは、美術館完成予想図の特徴的な屋根の大きなひさしと正面に開けたガラス面をオマージュし、美術館の外観をシンボライズした。青い屋根とひさしは、未来へはばたく鳥の羽をイメージし、中央の白抜きは、鳥取のイニシャルTと未来への入り口を表現した。ロゴデザインは、特に視認性に優れ、シンボルマークとの調和を考えた。英語表記は、小文字で柔らかく親しみやすさを考慮した。

D



色とりどりの正方形のパズルを散りばめて子供たちが遊んでいる様子を表現して子供たちが楽しめる空間になるよう思いを込めた。また、字を白色にすることで、パズルを強調した。

E



シンボルマークは、

青空と大御堂廃寺跡、美術館で構成されています。
美術館のシルエットは、鳥取の頭文字「T」を表します。
青空の下、大御堂廃寺跡は人々の集う場を、
美術館の白色は、未来や活動が描かれる場を表します。
また、一定のルールに基づき、シンボルマークは縦横へ伸縮可能な設定とします。
一人ひとりが想像し、可能性を生み出す。
それこそが、未来をつくる美術館に相応しいと考えます。

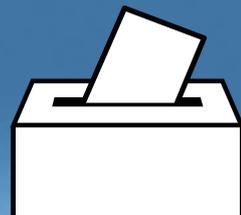
F



鳥取の「鳥」を全体のモチーフに制作しました。「鳥」の上部が横に長いのは、貴館の建物を模しています。その下にある2つの波は、砂丘、風紋を主に表していますが、鳥取県と面している日本海の波、緑豊かな山も含めております。そうした自然の土壌で鳥取はできており、縁の下にあることを落とし込みました。波打つことで人々の熱量も盛り上がりげらばと思います。

（全6点・順不同／手描きの作品など必要に応じて作者の了解を得てデザイン調整を施しています。採用後に実用化を踏まえて再度調整を行う場合があります。）

鳥取県立美術館 ロゴ・シンボルマーク 一般投票



鳥取県立美術館（2025年春開館予定）の象徴となるロゴ・シンボルマークづくりを、誰もが参加できる公募型ですすめています。応募された約1700点のなかから、一次審査を通過した作品について、オンライン一般投票を実施します。ぜひご参加ください！



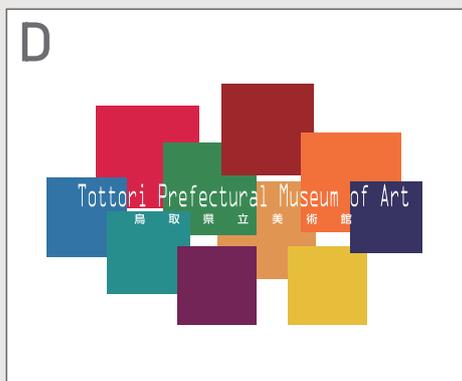
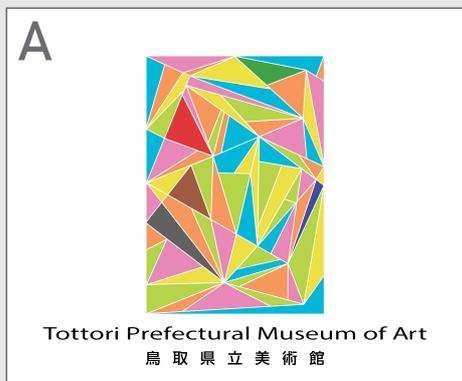
- ① 公式LINEアカウントを「友だち追加」
- ② トーク画面から「一般投票」へ
- ③ 1つを選んで投票！



@tottori_moa

- ・投票は1つのアカウントにつき1回のみとなります
- ・一般投票の結果は、最終審査において、審査員1名分として扱います
- ・最優秀賞等の発表は2023年3月を予定しています

▼ 候補作品 ▼



(全6点・順不同/手描きの作品など必要に応じて作者の了解を得てデザイン調整を施しています。採用後に実用化を踏まえて再度調整を行う場合があります。)

▼プレサイトにはデザインコンセプト一覧も掲載しています



投票期間

2022年9月1日～30日

応募総数 1726 点！みなさまご応募ありがとうございました！

鳥取県立美術館ロゴ・シンボルマークの公募事業は、2022年4月に告知をはじめ、応募期間（7月7日～7月21日）の間に、全部で1726点のご応募がありました。

最年少は3歳から、最年長は80代の方まで！

プロのデザイナー、学生の方、親子での合作など、バリエーション豊かな作品の数々が集まりました。

また、小学校、中学校、高校、大学などから30校ほどの団体応募も。ご応募いただいた皆様、ありがとうございました！

8月5日にすべての作品を一堂に並べて一次審査を実施し、審査委員評議の結果、候補作品を選定しました。

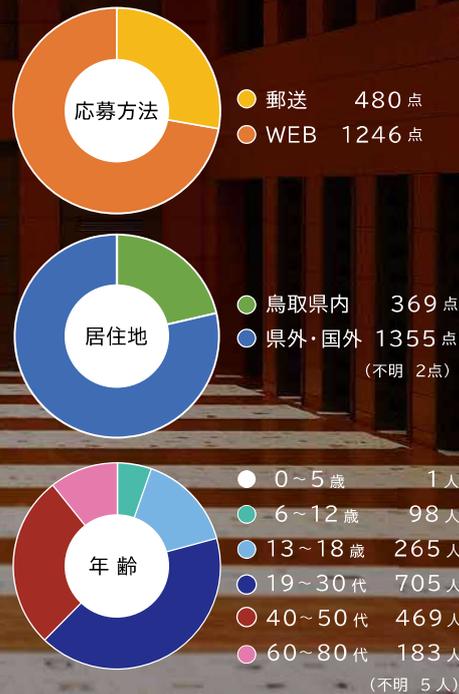
9月のLINE一般投票ではこの中から1点を選んでいただきます。

ぜひデザインをじっくり吟味して、投票をお願いします！

この結果は10月の最終審査において審査員1名分として扱います。

最終審査の結果発表（最優秀賞、優秀賞、特別賞）は2023年3月の予定。

どうぞお楽しみに！



一次審査の様子（2022年8月5日 鳥取県立倉吉未来中心にて）

OPENNESS！

2025年春、『未来を”つくる”美術館』が鳥取県に誕生します。

鳥取県立美術館は、50年にわたる鳥取県立博物館美術部門のコレクションと活動を引き継ぎながら、収蔵スペースや常設展示室を拡充し、ワークショップルームの新設や「アートを通じた学び」を支援するアート・ラーニング・ラボ（A.L.L）等の教育普及部門の充実によって、だれもが芸術文化にいつでも触れることができる環境を整備します。

また、鳥取県ゆかりの優れた美術に加え、広く国内外の優れた美術・文化や、同時代の美術の動向を示す作品の収集を継続的に行うことで、時代とともに成長を続ける魅力的なコレクション形成を図ります。

おもしろいこと

史跡大御堂廃寺跡に向けて広がる活動空間は、まちとのつながりを生み、フリースペースを多く設けた開放的な大屋根のある建築の下では、多様な人々、アート、文化との出会いと創造性を日常的に促し、おおらかに来館者を迎えます。

施設整備・開館準備期においても、美術館づくりの進捗をオープンにし、だれにでも開かれた“ともにつくる”しくみで推進し、地域や文化施設と連携しながら、県内全域にひろがる多彩な事業を展開していきます。



◀ 詳しくはウェブサイトへ

検索 鳥取県立美術館



提供：横総合計画事務所 イメージ制作：ヴィック Vicc Ltd

2022.8月発行